

環境科学会 2026 年会におけるシンポジウム企画について

年会委員会

1. シンポジウムの実施要領（概要）

1) 下記 8 件の企画シンポジウムを開催いたします。

2) オーガナイザーは、年会委員会より送付された所定の様式により、企画したシンポジウムの詳細プログラム（演題・登壇者・所属）を作成し、**2026 年 5 月 29 日（金）17 時（時間厳守）**までに年会委員会に提出してください。また登壇者全員分の発表要旨原稿（原則して 1 演題にあたり A4 版 2 頁、または 1 シンポジウムで A4 版 2 頁、書式は研究発表と同じ）をとりまとめて、原稿提出締切日（**2026 年 7 月 8 日（水）17 時（時間厳守）**）までに年会委員会へ PDF ファイル（camera-ready）をメール添付でお送りください。事務局では修正ができませんので、オーガナイザーは必ず印刷して、写真や図表が不鮮明でないこと、様式に誤りがないことを確認してください。

3) シンポジウムの構成や当日の進行・会場運営はオーガナイザーに一任いたします。

問合せ先

公益社団法人 環境科学会 年会委員会シンポジウム担当

(E-mail : sympo(at)ses.or.jp ※(at)を@に変換してください。)

2. シンポジウムの一覧

* 各シンポジウムの最新情報については、学会ホームページ (<https://www.ses.or.jp/conference/2026conf/>) にて、適宜更新しご案内いたします。

タイトル	シンポ-1:「「より良い」環境とは何か, どう創出できるのか? ~「再生」の視点, Planetary Health の視点~」
プロジェクト名	
公募の有無	有
オーガナイザー および連絡先	渡辺知保 (長崎大学) chiho.watanabe(at)nagasaki-u.ac.jp ※(at)を@に変換してください。 山内太郎 (北海道大学) taroy(at)med.hokudai.ac.jp ※(at)を@に変換してください。
趣旨・内容	環境科学はもともと、人間活動で傷ついた環境の修復というマイナスからの復帰を中心に大きな成果を挙げてきたが、例えば街づくりの研究など、「より良い環境」の創出というプラスに向けた研究・実践も盛んになってきている。その中で「持続 (Sustainability)」を超え、生態系や社会の活力の回復を目指す「再生 (Regeneration)」の視点も求められている。ここでは、「より良い環境」とは何か、どのように創出するのかについて、「再生」の視点を含め、人間⇄環境の双方向性を重視する Planetary Health の枠組みも念頭に、学際的に議論する場をめざす。
開催日	9/3 (木) 午後

タイトル	シンポ-2:「循環経済移行に資する資源循環トレーサビリティの開発とその活用可能性に関する研究」
プロジェクト名	環境研究総合推進費 3-2401「秘匿性と公開検証性を両立させたブロックチェーン技術によるプラスチック循環のマスマバランス方式等評価手法確立と消費者行動への影響分析」
公募の有無	有
オーガナイザー および連絡先	松本亨 (北九州市立大学) matsumoto-t(at)kitakyu-u.ac.jp ※(at)を@に変換してください。 藤山淳史 (北九州市立大学) fujiyama(at)kitakyu-u.ac.jp ※(at)を@に変換してください。
趣旨・内容	Chain of Custody (CoC: 管理の連鎖) やデジタル製品パスポート (DPP) の動向、国内外で実施されている様々な実証事業の動向を踏まえ、今後の資源循環トレーサビリティの在り方とそれが実現することによる効果について議論する。まず、CoC や DPP の国内外の動向についてレビューし、資源循環トレーサビリティに求められる要件を整理する。さらに、トレーサビリティを可能とする情報プラットフォーム (PF) について、その技術開発動向や情報連携のための社会シス

	テムを議論する。さらに、情報 PF で取得した情報を用いた環境評価とその活用先としての消費者へのフィードバックの効果等について議論する。
開催日	9/3 (木) 午後

タイトル	シンポ-3:「大都市のリジェネレーションのこれまでとこれから」
プロジェクト名	
公募の有無	有
オーガナイザー および連絡先	白井信雄 (武蔵野大学) n-shirai(at)musashino-u.ac.jp ※(at)を@に変換してください。 明石修 (武蔵野大学) o_akashi(at)musashino-u.ac.jp ※(at)を@に変換してください。
趣旨・内容	日本のサステナビリティを考えるうえで、大都市圏とりわけ東京への人口と活動の集中の問題を避けずに取り上げることが必要である。では、大都市圏への人口集中の抑制と分散型国土の形成を見通しながら、大都市圏の自然と人の関係、人と人との関係の再生 (リジェネレーション) をどのようなビジョンをもって、どのように実現していくか。大都市圏の縮小というグランドデザイン、拡大の象徴である大都市臨海エリアの未来シナリオ、大都市圏における再生に向けたパーマカルチャー等の実践、大都市内の未利用資源の活用とコミュニティづくり、グリーンインフラの価値評価とネットワーク化等の多様な切り口から、実践の方向性と方策を探る。
開催日	9/3 (木) 午後

タイトル	シンポ-4:「地域をテストベッドとする持続的なグリーン水素社会システムの検証」
プロジェクト名	「J-PEAKS 社会実装加速化イニシアティブ」
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	島崎洋一 (山梨大学) 沼田大輔 (福島大学)
趣旨・内容	山梨大学では、グリーン水素に関係する研究・教育のリソースを集約し、統轄的・戦略的に推進するための「グローバル・ニュートラル・エネルギー研究機構 (GR/EEN) を 2025 年に設立した。J-PEAKS の研究計画において、4 つのイニシアティブ (先鋭研究強化・多階層頭脳循環・社会実装加速化・人材育成) が示されている。本シンポジウムでは、福島大学との連携で検討を開始した社会実装加速化イニシアテ

	イブに焦点をあて、地域をテストベッドとする持続的なグリーン水素社会システムの検証に向けて、情報提供や今後の方針を意見交換する。
開催日	9/4（金）午前

タイトル	シンポ-5：「環境意識・行動の促進に向けた情報提供のあり方（仮）」
プロジェクト名	「学術賞受賞記念」
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	栗栖聖（東京大学） 青木えり（横浜市立大学）
趣旨・内容	近年、気候変動や生物多様性の損失など、地球規模の環境問題が深刻化する中で、市民一人ひとりの意識と行動の変容がこれまで以上に求められている。そのような中、環境に配慮した行動を促進するための重要な手段のひとつとして、「科学的情報の提供」が挙げられる。しかしながら、単に正確な情報を提示するだけでは、人々の関心や理解、さらには具体的な行動変容へと結びつかない場合も多い。では、私たちはどのように科学的知見を伝え、市民とコミュニケーションしていくべきなのだろうか。本シンポジウムでは、各分野で実践的な取り組みを行っている登壇者の事例を共有し、効果的な情報発信の手法や課題について多角的に議論する。
開催日	9/4（金）午前

タイトル	シンポ-6：「水と人の関係性の再編に向けて一価値観・インフラ・社会の統合的理解」
プロジェクト名	
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	村上道夫（大阪大学） 中村高志（山梨大学）
趣旨・内容	近年、水インフラの老朽化や維持管理の負担増大、災害リスクの顕在化を背景として、水環境は転換期を迎えている。集中型に加え分散型インフラへの関心も高まり、こうした変化は価値観や意思決定のあり方に新たな問いを投げかけている。これまで本シンポジウムでは、水と人の関係性や価値観に着目し、第1回ではその構造を、第2回では水インフラと地域社会の関わりを議論してきた。 本シンポジウムでは、これらを踏まえ、水環境をめぐる価値観とインフラの関係を統合的に捉え、実践への接続を検討する。多様な分野の

	知見をもとに、水インフラの集中化・分散化とそれを支える社会の仕組みについて議論する。
開催日	9/4（金）午前